

英国研究評価制度REF及び社会的インパクト評価に係る講演会
「大学における社会的インパクトとは？ ー英国の事例に学ぶー」プログラム

- ・日 時：令和4年1月20日（木）17:30～20:30（日本時間）（オンライン開催）
- ・主 催：国立大学協会、英国大学協会（UUK）、Research England
- ・主対象者：学長、理事・副学長（企画・評価等担当）、事務局長
- ・目 的：第4期中期目標期間において、各国立大学は社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、その戦略的な強化に取り組むことが求められている。そのため、英国の研究評価制度であるREF (Research Excellence Framework) の目的・考え方や、研究による社会へのインパクト創出の、大学における把握及びステークホルダー等への適切な説明方法などの事例提供を通じ、国立大学における取組の在り方に資する。

プログラム

総合司会：林隆之 政策研究大学院大学 教授

第1部	開会挨拶等（20分）
17:30	牛木辰男 国立大学協会 国際交流委員会委員長（新潟大学長）
17:35	David Sweeney, Research England 会長
17:40	日本の研究評価に係る背景と現状 ・林隆之 政策研究大学院大学 教授
第2部	REF（英国研究評価制度）概要説明（55分）
17:50	REF の概要 ・Catriona Firth, Research England 研究環境部次長
18:05	REF インパクト事例の評価 ・Naren Barfield 王立美術院副学長・プロボスト
18:20	パネルディスカッション及び質疑応答 ・Catriona Firth, Research England 研究環境部次長 ・Naren Barfield 王立美術院副学長・プロボスト ・モデレーター：林隆之 政策研究大学院大学 教授
18:45	休憩
第3部	英国大学からの事例紹介（85分）
18:55	事例1：インパクト事例ー社会的・経済的インパクトの実証 ・Taeko Wydell ブルネル大学健康・医療・生命科学部教授 事例2：インパクト事例ー社会的・経済的インパクトの実証 ・Neil McDonnell グラスゴー大学知覚経験哲学研究センターLKAS フェロー 事例3：REF 及び社会的インパクトの戦略的価値に関する大学の視点 ・Anthony Hollander リバプール大学研究担当副学長 事例4：評価プロセスに関する大学の視点 ・Rose-Marie Barbeau グラスゴー大学研究インパクトマネージャー 事例5：研究インパクトの活用 ・Matt Flinders, University Policy Engagement Network 議長
19:45	パネルディスカッション及び質疑応答 ・Taeko Wydell ブルネル大学健康・医療・生命科学部教授 ・Neil McDonnell グラスゴー大学知覚経験哲学研究センターLKAS フェロー ・Anthony Hollander リバプール大学研究担当副学長 ・Rose-Marie Barbeau グラスゴー大学研究インパクトマネージャー ・Matt Flinders, University Policy Engagement Network 議長 ・モデレーター：林隆之 政策研究大学院大学 教授
第4部	閉会挨拶（10分）
20:20	山口宏樹 国立大学協会専務理事
20:25	Janet Beer 英国大学協会国際政策委員長（リバプール大学長）